

第5回浪江町復興検討委員会 議事概要

1. 日時 平成24年1月26日(木) 10:30~16:15

2. 場所 二本松市市民交流センター 1F 多目的室

3. 出席者

【委員】

鈴木浩委員長(第2部会長)、吉岡副委員長(第3部会長)、丹波委員(第1部会長)
(第1部会)

山本委員、高田委員、今野委員、岸委員、松本委員、泉田委員、畠山委員
(第2部会)

高橋委員、稲田委員、佐々木保彦委員、原田委員、戸川委員、佐藤博美委員、佐藤隆委員、坂委員、松本孝徳委員

(第3部会)

門馬委員、菊池委員、叶谷委員、松本茂子委員、半谷委員、橋本委員、石田委員、難波委員、御代委員、上野委員

(欠席)

鈴木充委員、佐々木久雄委員、松崎委員、鈴木市夫委員、大井委員、櫻井委員

【事務局等】

馬場町長、谷田企画調整課長、玉川企画調整課主幹

4. 議事

(1) 全体会(前半)

①ビジョン検討状況の中間報告の説明

②児玉委員による放射線と除染に関する講演

(2) 部会審議

①住まいに関する討議

②放射線と除染に関する討議

(3) 全体会(後半)

①部会報告

②全体討議

5. 議事概要

1. 全体会（前半）

○委員長あいさつ

委員長

- ・当委員会では、第4回までの議論を踏まえ復興ビジョン中間報告という形で骨格を示しているところ。
- ・政府においては昨年末に原発事故収束宣言を出し、放射線の分布を示し、12月28日には双葉郡に対し中間貯蔵施設の設置打診を行った。そういった中、浪江の復興計画をどういう手順で行っていくのか。その中でも特に放射線の分布を踏まえ、除染をどのように進めていくのかというのは重要な検討事項である。
- ・本日は、東京大学の児玉先生にお越しいただき放射線や除染に対する考え方を示していただく。
- ・現在浪江町は仮設住宅、借り上げ住宅などが28カ所に分散しており、他の町に比べ非常に多くの箇所に分散している。復興プロセスの中でどうまちづくりを進めるか。困難であることは間違いないが、やれないことではない。今日はこれからの方向性について議論していきたいと考えている。

○町長あいさつ

町長

- ・震災後、浪江町民は非常に苦しい生活を強いられた。今日は突っ込んだ論議をすることになるかと思うが、皆さんの叡知を集めて十分に議論をしていただきたい。
- ・浪江町としてはできるだけ分断されないように浪江町の絆を大切にしながら区域の分断には慎重に協議を町民とやっていきたい。
- ・中間貯蔵施設について双葉郡に作りたいとの提案が政府からあった。当初は福島県内のどこかにということだったがいつの間にか双葉郡にお願いしたいという話に変わった。非常にとまどっているが、今後8市町村で協議をしながら国がどういう方向性で国が考えているのかを精査しながら双葉郡の、そして浪江町の立ち位置を検討していきたい。

○復興ビジョン中間報告における前回からの修正点

事務局

- ・中間報告からの修正点について説明。資料1参照。

○児玉先生による講演

児玉教授

<はじめに>

- ・チェルノブイリと福島事故で何が違うかという点、前者は20世紀の共産主義政権下で起きたこと、後者は21世紀の先進国である日本で起きたこと。日本は技術力

も経済力も非常に高いため除染や放射線計測に向けてレベルを上げていくと思われるが、何よりも大事なことは復興に向けてのビジョンを描いていくこと。

・被災地域だけの問題ではなく日本全体で全力を挙げて取り組むべき問題との認識を持つべき問題というそのメッセージを浪江町から発信するべき。

<放射線による健康被害>

・除染をしても無意味だと言う人がいるがそれは嘘。正しい除染を行えば放射線量は確実に下がる。

・放射性物質にもアルファ線、ベータ線、ガンマ線、中性子線の4種類あって、アルファ線とベータ線は危険だが、ガンマ線と中性子線は必ずしもそうではない。

・DNAは、通常二重螺旋になっているが分裂期は一本になり、一本の状態は放射線の影響を受けやすい。つまり、分裂が盛んな子どもや妊婦が影響を受けやすいということ。また大人でも髪の毛や白血球は影響を受けやすい。

・多くの研究者が、今回の事故をチェルノブイリと比較して安全か否かを述べているが、アルファ線は、発癌までに30年を要する。チェルノブイリ事故からはまだ30年を経過しておらずチェルノブイリとの比較で安全か否かを論ずるのは危険。

・外部被曝はかなりの量を受けたときに急性障害を引き起こすが、内部被ばくは低線量でも晩年性障害でも起こりうる。

・遺伝については二つにわけて考えるべき。①子どもへの遺伝性については、仮に放射線の影響を受けた精子または卵子があったとしても受精の時に生き残る可能性は低く、子どもへの影響は伝わりにくい。②本人の細胞への影響は、一つの細胞が影響を受けると時間を経てガン化する細胞が増え影響は大きい。

・食品の検査については、抽出検査ではなく全品検査が必須。環境中のどこで汚染されているのか見当がつかないため。検査した結果、線量に問題がなければ出荷、高ければ国なり東電が買い上げるべき。

<質疑応答（放射線編）>

Q. 放射性物質は最終的に何種類あるか。

A. ヨウ素 131、テルル 129n、セシウム 134、セシウム 137 の4種類が中心。ヨウ素、テルル、セシウム 134 とも減衰している。

Q. アルファ線、ベータ線で内部被ばくすると危険とのことだが、量的にはどの程度出ているのか。

A. アルファ線、ベータ線はストロンチウムとプルトニウムに該当するが、現時点ではサイト付近は別として、飛散した範囲ではストロンチウムでは高い数値は出ていない。より詳細にしなければならないとはっきりしたことは言えない。現在、数値を出せるよう努力している。

Q. 低量被曝によるガン以外の身体への影響はあるのか。たとえば動脈硬化とか。

A. 膀胱炎がある。セシウムが出るところに 10 年間住んでいると起きる（内部被ばく）。今後、チェルノブイリ事故での影響が新たに判明する可能性もある。ただし、放射能との因果関係を検証するのは難しい。

Q. シーベルトとアルファ線、ベータ線等との関係は何か。

A. シーベルトは便宜的に付けた単位。本来は「セシウムが何ベクレル」「ヨウ素が何ベクレル」という単位でないと対策は立てづらい。

Q. どの程度の放射線量なら安全か。避難地域においても $0.3 \mu\text{Sv/h}$ や $0.5 \mu\text{Sv/h}$ 、多いところでは $1.03 \mu\text{Sv/h}$ を超えるところもある。

A. どの線量なら安全、という線引きはできない。1~20 mSv/年でリスクがないかと言われればそれは言い切れないわけで、あとはご本人がどこに価値を置くか、どこで納得するかである。しかしながら、既に今まで守られてきた基準である 1mSv/年を目指すべき。今の安全基準を変えず、その基準に向けて数値を下げる努力を国や東電は行わなくてはならない。

<除染について>

・「国が作成した放射線マップは信用できるのか」という質問をしばしばいただくが、信用できると考えている。それを踏まえ、浪江町においては、私見であるが常磐線より東側の地域が戻ることのできる地域だと思う。

・セシウムは水溶性であり、 641°C で気化する。粘土に吸着しやすい。下層への浸透は 3cm 以下であり、その分だけ削ってしまえば線量は大幅に下がる。

・除染は、作業員任せ、国任せにせず、当事者（町民）がしっかりチェックをして除染してもらうことが重要。作業員任せだと、言われた所を言われたままにやるだけ。当事者にしか分からないこと（ex. どの場所が子どもがよく使う所か等）があるはずなので、現場の状況を踏まえて作業員に指示をしていくこと。また一回の除染ではうまくいかない場合が多いので、線量が下がるまで複数回やること。

・校舎の中を除染した後、また放射性物質が中に入らないように気をつけなければならない。たとえば靴の履き替え。せっかく除染しても外の土が中に入ってしまう。また汚染されてしまう。

・セシウム回収型焼却処分場とバイオマス発電所をベースにした産業の構築は、町の復興策として有効ではないかと思われる。

・高線量地区は、除染及び住宅撤去に多大な時間を要する。新しい生活拠点となるエリアをつくる必要がある。

・復興に向けて日本全体が力を尽くし復興するよう、私としても努力していくが、浪江からもメッセージを発信して行っていただきたい。

<質疑応答（除染編）>

Q. 低線量地域を除染しても風などで放射線が飛んでくる可能性があるかと思うが、せっかく除染してもそれではたちごっこの感がある。どうすればいいか。

A. 現在のデータ上は、空間飛散量が増えるという状態ではない。例えば用水の水などは、水そのものはそれほど汚染されていない。放射性物質が底にある粘土にはり付いているので、さほど心配はいらない。

Q. 常磐線より東側は線量が低いとのことだが、泉田川の上流の伏流水は大丈夫なのか。津島地域から流れてこないか。

A. 取水場の水を測ったが、検出限界の線量ではなかった。ただし、継続してチェックしていく必要がある。

Q. 仮に線量が下がったからといって、浪江に戻ってきた途端にまた線量が高くなったと言われてもそう簡単に避難はできない。揚水場にもセシウムを取り除く施設が必要ではないか。

A. 水はとにかく徹底的にそして持続的にチェックする必要がある。検出されなければ使用し、危ないようであれば絶対に使わないという対応が必要。

Q. 大堀地区に戻ることはできるか。

A. 線量はかなり高いのは事実。しかし個別のケースについては個別の検証が必要。

2. 部会審議

○委員長より問題提起

委員長

(資料3、4、5を参照しながら説明)

・復興は10年、15年と長期スパンのものとなっているが最終的な復興の姿を描くのは難しいというのが現実。一方で今のような状況をそのまま引きずっていいのかというのもまた事実。今の生活を可能な限り現実の願いに沿った形で、住む場所、コミュニティの形成にあたってもう少し工夫が必要なのでは、というのが私の提案。

・漸進的改革としつつも、これまでの仮設での生活で出た教訓から軌道修正できるところは修正し、全ての住民にとって様々な選択肢から選択が可能なステップアップ計画を立てて行かなくてはいけない。

・暫定目標として6つの視点によるコミュニティの集約を提示しているがあくまで形式的な話。何カ所になるかは皆さんと議論。

・仮設住宅の移設を進めるにあたって、旧町村単位ごとに再編成が必要。

・受入自治体(二本松市、南相馬市等)との協議が必要。用地確保、義務教育の受入、ゴミ処理問題、その他検討すべき課題が多数。

- ・まちの再生、再編に向けて浪江町と自治会の長による会議を設けては。
- ・住民の意向調査もやっていかないといけない。
- ・コミュニティ再生に向けて専門家の形成も課題。特に除染と医療福祉などの方面。小さなエネルギー供給をコミュニティごとでできないか。
- ・住民だけでなく町や県、国との協議も必要。予算の確保などは重要課題。

○各部会に分かれて討議

3. 全体会（午後）

○「住まい」「放射線と除染」に関する部会での討議の要旨報告

【第1部会】

（住まい）

- ・区域の見直しをしたとしてもその先が明確でない。集約化をしつつ絆を大事にして浪江でまとまりたい。
- ・子どもが学校に通い始めて、仕事を始めたりすると、すぐに帰ることが難しくなることもあり得る。今まで戸建てに住んでいた人にとっては、今の生活環境は狭い。そういうことへの配慮は欠かせないだろう。
- ・県外で生活している人も大勢いるが、そういう人たちにとっても浪江町に戻りたいと思えるビジョンが必要。
- ・仕事ができる環境が整わないと帰れない。復興会社みたいなものを官民あげて整備しなくてはならない。
- ・金銭面だけでなく、生きがい、働きがいを感じられる環境整備もしていかなければいけない。
- ・ビジョンと実際の生活との関連性、どういった方向性で進めていくのかをもっとビジョンに盛り込んでいくべきではないか。

（除染）

- ・警戒区域内の除染は国で実施することとなっているが、どこまで線量を下げるのか基準がない中で、果たして安全なのか疑問。新たなコミュニティを作る際に「こういう町にしたいのでここを優先的に除染する」ということを町側から発信しないといけないのでは。
- ・早く見通しを立ててほしい。

【第2部会】

- ・町民がバラバラの地域に住んでいる。蓄積線量がこれだけ高い。しばらくは戻れないのでは、といった覚悟の中で仮設住宅生活を強いられている。これをどう克服するか。
- ・コミュニティとしての機能を集約し、一定の生活をしていくためのまちを形成する

ことが必要。住まいだけでなく、その中で新しい魅力やまちとしての機能が揃わないとダメ。医療機関、福祉施設、インフラなどを復興させるには 1000 戸単位くらいの固まりとすることも必要では。

- ・全域除染は時間がかかるが、メリハリを付けてやっていく。コミュニティの集約をやっていくとしても、「町外エリア」と「浪江の中のエリア」の二通りにしないと難しい面が多い。

- ・国道 6 号線の東側が低線量。浪江の中で復興するとすれば、ここをきっかけとして町の復興が進むだろう。

- ・まちづくりとしての復興、コミュニティ作りは重要。元にもどすだけでなく都市としての機能、雇用環境もセットでないといけない。人口構成をどう考え、住民の生活をどう支えるのか検討していく必要あり。

- ・除染計画とまちづくりの整合性は必須。除染計画のメリハリをつけることが重要。

- ・浪江町に戻りたいという人だけの計画ではない。戻りたいけど戻れない、あるいは戻りたくないという人もいる。そういう人がどこで生活するのか。その人達をどう支援していくのか。これを復興計画に盛り込むことは極めて重要。

【第 3 部会】

(住まい)

- ・課題は仮設住宅に住んでいる人と借り上げに住んでいる人の環境の違い。このままだと家庭の崩壊に繋がる、プライバシーがない、風呂狭い、隣の足音がうるさい、集会場も利用しづらい、と言った声がある。

- ・できるだけ顔なじみの人と一緒に住みたい。

- ・まずは賠償をしっかりとってほしい。

- ・持ち家に住んでいた人は持ち家に住める、という自由度もほしい。

- ・町外に住まいながらも適宜町に滞在、回帰できるような便宜も図ってほしい。

- ・地域ごとのまとまり、コミュニティ作りも進めたい。

- ・地域区分については、単に区分するだけでなく、地域に応じた住まい、環境整備を国に求めたい。

- ・仕事、雇用もセットで用意する必要あり。

(除染)

- ・除染はできないからお金で精算してくれという声も多数。戻ることを諦めるという意見もあれば除染はできる！という声も。

- ・まずは町の中で戻れるところから戻ること。

- ・地図から浪江を消したくない。復興のためにも早く高速道路の建設をという声もある。

- ・町外にいる親戚も呼び戻せるような魅力的なまちづくりをしてもらいたい。

- ・除染については新しい技術に期待したい。

- ・中間貯蔵庫の問題。三町（大熊、双葉、浪江）で議論して広域で考えていくことも

一案。

○全体討議

児玉教授

・部会での議論を通して皆さんの思いの深さに考えさせられた。国会議員との勉強会に出たが、皆さんの思いの深さが東京には伝わっていない。私としても今日お話をうかがって認識を新たにしたい。東京大学は原子力について色々やってきたが、何とかしたいと思っている科学者も大勢いる。

・日本という国が抱えている問題だという認識で、被災している人だけの問題ではなく、科学者、そして全ての人考える問題としてとらえなくてはいけない。

・浪江町の特殊性について。(放射線量マップを見ると) プルームの通ったところとそうでないところがハッキリしすぎている。非常にシャープになっている。住民がいなくて除染は成り立たないと申し上げたが、常磐線より西側は厳しい状態にあることは事実。新しいまちを作るという方向性でないと、魅力あるまちづくりはできないし、まずは魅力あるまちづくりを進めていかないと除染も進まない。

・医療の問題について。かなりの線量を浴びた方もいらっしゃる可能性ある。24時間相談できるかかりつけのお医者さんが必要。いきなり専門医に行ってもいいことないので。

・除染もやる、一人一人の生活の保障もする。両者並行していかないといけない。2月10日に復興庁ができるが、新しいまちづくりのための支援をやると聞いている。国と東電の責任として覚悟と決意を持ってやっていかないとダメ。

・バイオマス発電は地域がやることではなく、地域のために国がすること。

・森林の除染は国が責任をもって30年を3サイクルくらいかけて時間をかけてやっていく、その中で環境が良くなるようにしていくことだと思う。

・除染は地面を10~20cm削っていけば線量は下がる。ただ時間的スパンはかなり長い。急いでやろうとすると無理がある。国全体の施策の中で浪江の復興を目指していくことが必要ではないかと思う。

高田委員

・町長にお願いだが、若者が戻ってこられる環境整備のため、再生可能エネルギーを線量の低いところへ作るよう。政府に強く要望してほしい。双葉郡、そして福島全域が一丸とならなくてはならない。

稲田委員

・復興ビジョン中間報告の書きぶりについて。帰町すること、復興することがいかに難しいか。若年層が減りひ弱な自治体になっていく危機を抱えている。そういった逆境に立ち向かう覚悟がどれほど必要か。ビジョンは幻想を抱かせるような書きぶりではなく、各町民が冷静な判断をできるような内容にしていくべきではないか。

難波委員

- ・私自身、除染は可能と考えているが、優先順位をしっかりとつけなくてはいけない。
- ・福島大学としても浪江を支援していきたい。

町長

・3部会でのまとまったご意見を拝聴して、今皆さんが思っておられることをしっかり発表・提案していただいたと聞き及びます。国と東電が加害者の立場として中間処理施設を双葉郡にと提案しているが、国として双葉郡の位置づけをどうしていくのかのビジョンの提示が一切ない。政府には具体的な提示をするよう申し上げている。また、賠償の問題も国が東京電力をリードしていかななくてはいけない。東京電力は破産している。それがかなわなければ皆さんからの提案を活かすことは困難である。賠償問題をしっかり提案して、新しいまちづくりをやってもらいたい。いずれにしても今日いただいたことは町として大変参考になる内容であった。

児玉教授

- ・最後に補足。 $\mu\text{Sv/h}$ と年間積算である Sv/年 の関係。文科省の提示は場所の線量と人の線量を混同しているが、場所の線量は人の線量は個人ごとに全然違う。場所と人の線量を混ぜるのはナンセンス。部屋の中にいたって、窓際と部屋の中側で線量は違うし1階と2階でも違うわけ。そこを混同してはいけない。
- ・場所としては $\mu\text{Sv/h} \times 24 \times 365$ でしかない。個人はガラスバッチでそれぞれをしっかりと把握すること。

委員長

・本日は突っ込んだ議論をしていただいた。国との復興計画に対する議論の材料にしたい。また復興ビジョンにも反映をしてまいりたい。

事務局

- ・今後のスケジュールだが、3月に復興ビジョンの取りまとめを行う。
- ・次回は2月21日を第一候補日にしている。ただし変更の可能性もあるので後日連絡させていただく。(終了後、2月20日(月)に確定)
- ・次回の内容は修正事項の確認とパブコメ、小中高生1700名の声(アンケート)の内容の反映及び全体の修正について議論する。